

平成25年度 第2回

杉並区インターネット区民アンケート

集計結果報告書

「行政評価」区民アンケート



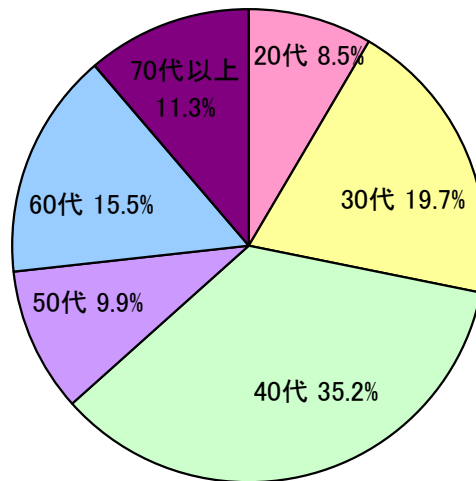
平成25年10～11月実施

杉並区総務部区政相談課

調査の概要

- 1 調査の目的 区は、施策や事務事業の成果及び達成度を明らかにし、効率的で質の高い区政運営を実現していくため、毎年、行政評価を実施しています。評価にあたっては、区民の皆様から直接ご意見を伺うことが重要であると考え、このたびインターネットによる区民アンケートを実施することといたしました。
- 2 調査の内容 「行政評価」区民アンケート
- 3 調査期間 平成25年10月18日(金)～11月7日(木)
- 4 回答者数 71人
- 5 回答者構成 単位:人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
男性	0	3	2	11	1	8	8	33
女性	0	3	12	14	6	3	0	38
合計	0	6	14	25	7	11	8	71



6 集計・分析にあたって

- (1) 各項の初めにあるNは、回答者数を表しています。
- (2) 百分率は、小数第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合があります。
- (3) その他の意見と設問10の自由意見は、要約を掲載しました。

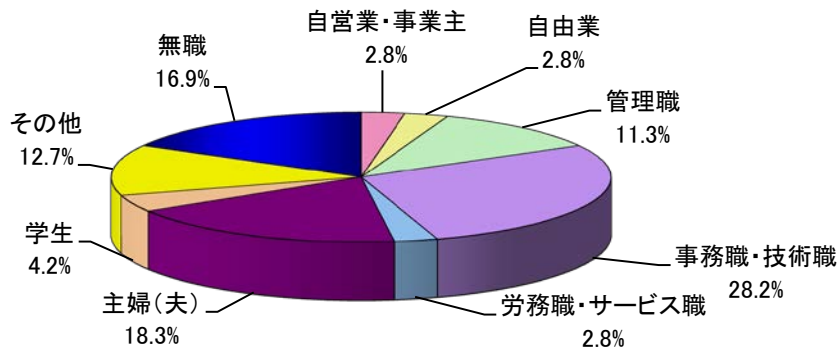
区民による行政評価について

設問1及び2は調査の概要に掲載済み

設問3 あなたの職業をお答えください。

N = 71

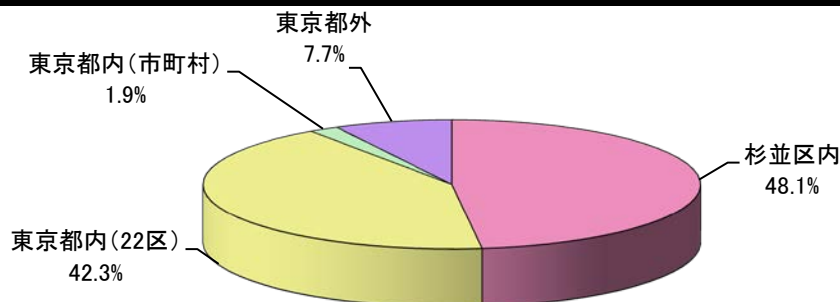
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 自営業・事業主	2	2.8%	男性	2		1	1	
			女性	0				
② 自由業	2	2.8%	男性	1				1
			女性	1			1	
③ 管理職	8	11.3%	男性	6		5		1
			女性	2	1	1		
④ 事務職・技術職	20	28.2%	男性	4		3	1	
			女性	16		15	1	
⑤ 労務職・サービス職	2	2.8%	男性	2		2		
			女性	0				
⑥ 主婦(夫)	13	18.3%	男性	0				
			女性	13	1	9	3	
⑦ 学生	3	4.2%	男性	3	2	1		
			女性	0				
⑧ その他	9	12.7%	男性	6	1		3	2
			女性	3	1	1	1	
⑨ 無職	12	16.9%	男性	9		1	4	4
			女性	3			3	



設問4 あなたのお勤め先や学校は次のどれですか。

N = 52

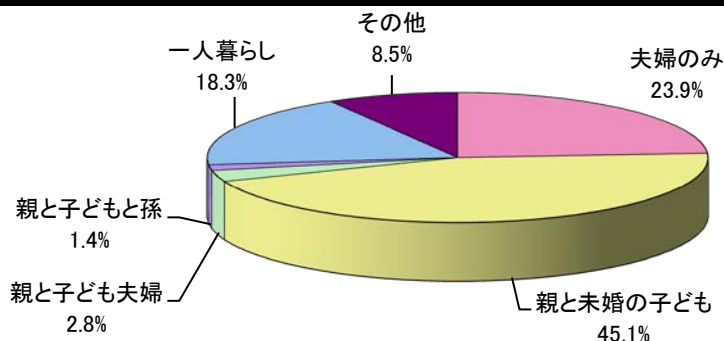
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 杉並区内	25	48.1%	男性	8	1	1	4	2
			女性	17		13	4	
② 東京都内(22区)	22	42.3%	男性	13	2	9	1	1
			女性	9	1	8		
③ 東京都内(市町村)	1	1.9%	男性	0				
			女性	1		1		
④ 東京都外	4	7.7%	男性	4		2		2
			女性	0				



設問5 あなたのお宅の家族構成は次のどれですか。

N = 71

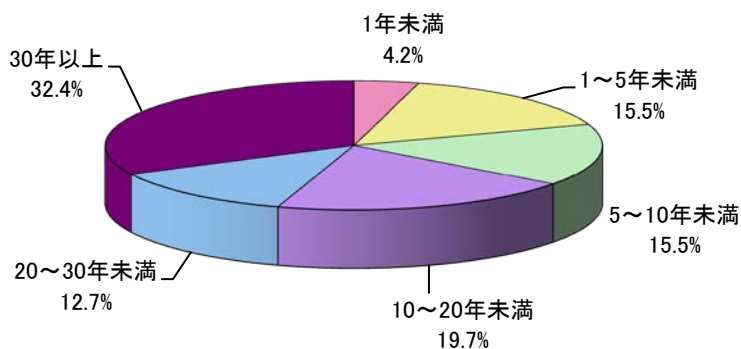
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 夫婦のみ	17	23.9%	男性	11			3	8
			女性	6	1	4	1	
② 親と未婚の子ども	32	45.1%	男性	10	1	5	4	
			女性	22	1	18	3	
③ 親と子ども夫婦	2	2.8%	男性	1		1		
			女性	1		1		
④ 親と子どもと孫	1	1.4%	男性	0				
			女性	1		1		
⑤ 一人暮らし	13	18.3%	男性	7	1	5	1	
			女性	6	1	1	4	
⑥ その他	6	8.5%	男性	4	1	2	1	
			女性	2		1	1	



設問6 あなたは杉並区にお住まいになってどれぐらいですか。

N = 71

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 1年未満	3	4.2%	男性	0				
			女性	3	1	1	1	
② 1～5年未満	11	15.5%	男性	5	1	4		
			女性	6	1	5		
③ 5～10年未満	11	15.5%	男性	4		4		
			女性	7		7		
④ 10～20年未満	14	19.7%	男性	4		4		
			女性	10	1	8	1	
⑤ 20～30年未満	9	12.7%	男性	6	2		4	
			女性	3		1	2	
⑥ 30年以上	23	32.4%	男性	14		1	5	8
			女性	9		4	5	

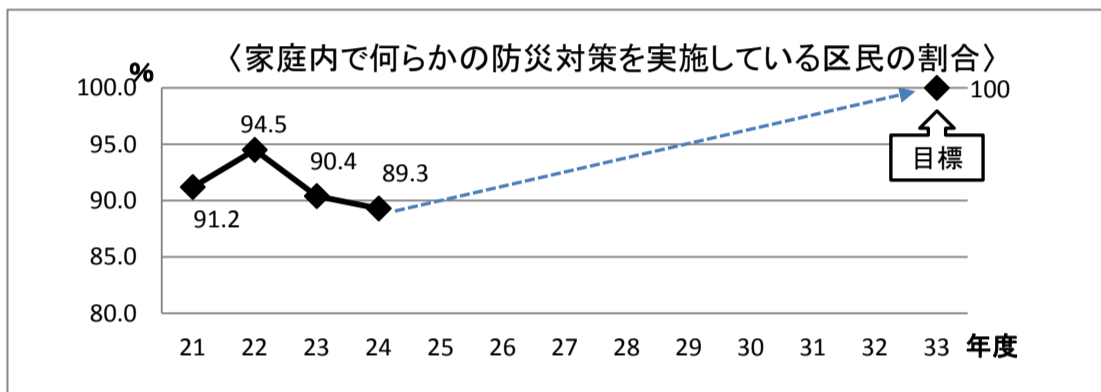


1 目標 (平成33年度の杉並区の姿)

○大震災発生時の被害をできるだけ小さくする減災の視点を盛り込んだ、きめ細かい総合的な防災対策が進められています。また、こうした中で、区民の防災意識が向上し、すべての区民が家具の転倒防止や備蓄などの防災対策を講じています。
○災害時において、高齢者や障害者などの要援護者に対する安否確認・避難等の支援や、区民が適切な医療を受けられる体制が整ってきています。

2 主な取組・成果

取組	数量	内容
区有施設への自家発電設備等の設置	3所	防災機能の充実と区民の安全を守る施設とするため、西荻地域区民センター、杉並保健所、高円寺体育館に自家発電設備等を増設しました。
防災訓練の実施	参加者 40,235名	区内小中学校等67箇所で開催した震災救援所訓練を実施しました。また、防災市民組織(156組織)の活動・訓練等にも助成しました。
地域たすけあいネットワーク(地域の手)への登録など、災害時要援護者支援対策の推進	登録者 8,775名	自力での避難が困難な高齢者や障害者などの災害時要援護者に「地域たすけあいネットワーク(地域の手)」への登録を促進しました。また、民生委員が戸別訪問し個別避難支援プランを作成(6,471枚)するとともに、救急時に迅速な救護に役立てられるよう救急情報キットを交付しました。



出典:杉並区区民意向調査
「区政に関する意識と実態」

3 かかった経費

平成24年度にこの施策にかかった経費は、事業費と人件費を合わせ、約18億1千万円でした。このうち、事業費は約13億円、人件費は約5億1千万円です。主な事業費としては、災害備蓄倉庫の維持管理や備蓄品の入替補修、街頭消火器の維持補修などの防災施設整備に約1億4千万円、南相馬市への支援など、東日本大震災復興等支援に約9千万円です。

区民一人あたりの額

この事業 3,358円
区の全ての事業 42万7千円

4 自己評価

区民の生命、身体及び財産を災害から保護し、その安全を確保するとともに、被災後の区民生活の早期の再建や地域の復興を図るため、地域の防災力の向上に努めているほか、震災対策をより一層充実するために地域防災計画に基づき、減災に向けたハード・ソフトの両面での整備を進めています。

子どもや障害者などが利用する施設では、災害時に利用者を一時預かる必要があり、また、利用者の特性に対応した施設機能の強化が必要となることから、他の区立施設に先行して対応策の検討を進め、機能強化策をまとめました。

また、災害時要援護者支援活動を補完する個別避難支援プランを民生委員が作成し、支援活動に役立てられるよう整備したほか、災害時子ども安全連絡網を整備し、災害時等における子どもの安否確認の状況を速やかに保護者に伝えることができるようにしました。

首都直下型地震等に備え、災害時において拠点となる施設に対し、自家発電設備等の増設を行うことで、防災機能の充実した施設づくりに取り組む一方、大規模災害発生時などにおける適切な医療提供体制の維持を図るため、杉並区医療施設自家発電設備整備助成を3病院に対して行いました。

被災地支援については、被災地のニーズに沿った「自治体スクラム支援会議」による支援を継続するとともに、大規模災害での支援活動における基礎自治体首長の主体的な役割と責務、その責務に基づき基礎自治体が行う水平型の支援活動に係る経費についての国の財政措置が明確に規定されるよう、国への要請を行いました。

5 今後の施策の方向

地域防災計画の継続的な見直しに加え、地域防災計画概要版等を活用した区民周知に努めるとともに、各種マニュアルの整備・改定を行い、計画の実効性担保に努めます。

東日本大震災の貴重な経験を通して、重要性が再認識された学校防災倉庫の備蓄品について、改めて必要度を精査したものを備えていきます。

また、区立施設への自家発電設備等の増設や、防災無線等、電話不通時に備えた通信インフラの確保と整備を進め、区民の安全を守る施設づくりに取り組んでいきます。

災害時要援護者支援についても、震災救援所への避難から在宅避難を原則とする考え方に転換し、災害時要援護者対策協議会において「地域のたすけあいネットワーク(地域の手)」の見直しを進めています。

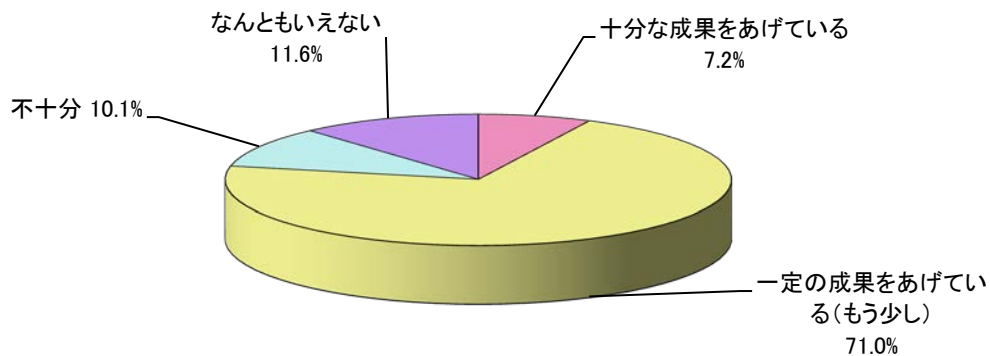
被災地支援については、「自治体スクラム会議」参加自治体や全国市長会などと連携しながら、基礎的自治体も主体的に支援の行動を起こす役割と責務、また、その支援に係る経費の国からの財政措置の明確化に向けた取組を継続します。

(設問7から設問9までは、評価用シート「No.1 減災の視点に立った防災対策の推進」をご覧になってからお答えください。)

設問7 シートの「2 取組状況・成果」「4 自己評価」について、どう思いますか。

N = 69

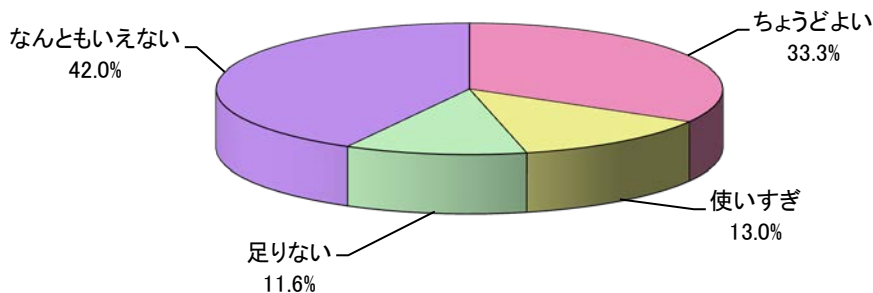
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	5	7.2%	男性	2			2	
			女性	3		3		
② 一定の成果をあげている(もう少し)	49	71.0%	男性	25	3	9	7	6
			女性	24	1	17	6	
③ 必要以上(やりすぎ)	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
④ 不十分	7	10.1%	男性	3		3		
			女性	4		3	1	
⑤ なんともない	8	11.6%	男性	3		1		2
			女性	5	2	1	2	



設問8 シートの「3 かかった経費」について、どう思いますか。

N = 69

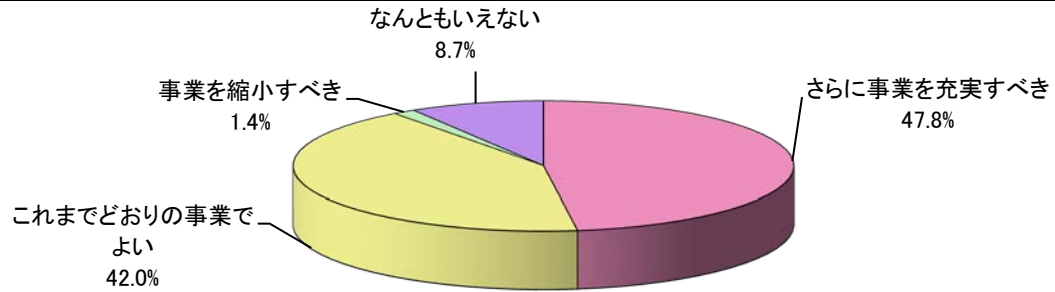
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	23	33.3%	男性	12	2	4	3	3
			女性	11	1	7	3	
② 使いすぎ	9	13.0%	男性	3		2		1
			女性	6		4	2	
③ 足りない	8	11.6%	男性	5		1	3	1
			女性	3		3		
④ なんともない	29	42.0%	男性	13	1	6	3	3
			女性	16	2	10	4	



設問9 シートの「5 今後の方向」について、どう思いますか。

N = 69

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	33	47.8%	男性	17	1	6	5	5
			女性	16	2	9	5	
② これまでどおりの事業でよい	29	42.0%	男性	14	2	6	4	2
			女性	15	1	12	2	
③ 事業を縮小すべき	1	1.4%	男性	0				
			女性	1			1	
④ なんともいえない	6	8.7%	男性	2		1		1
			女性	4		3	1	



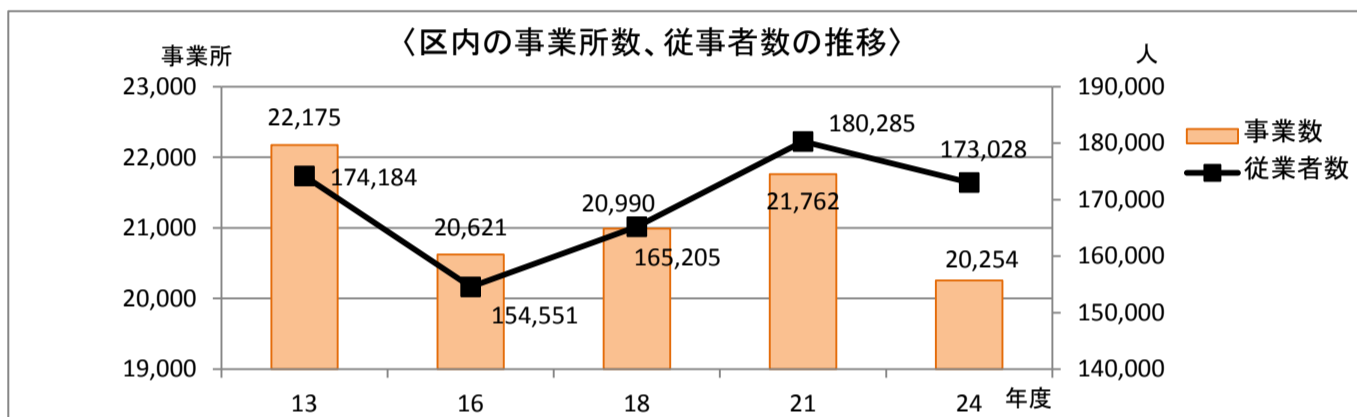
No.2 地域の特性を活かし将来を見据えた産業の振興

1 目標（平成33年度の杉並区の姿）

○区と区内産業団体等が一体となって様々な産業振興策を実施し、区内経済が着実に活性化してきています。
 ○就労支援や起業支援等の取組により、多くの意欲ある現役世代等の就職が叶うとともに、若者等の起業が進んでいます。
 ○地域の特性を活かした医療・福祉などの生活支援産業や、ICT(情報通信技術)・アニメなどの知的産業が成長してきています。
 ○区内農業者による地産地消マーケットなどの取組が行われ、学校給食へ農産物が提供されるなど、都市型農業の持つ多面性が活かされるようになってきています。

2 主な取組・成果

取組	数量	内容
産業支援の環境整備(産業振興センターの開設及び産業振興審議会の設置)	—	平成24年5月に産業振興センターを開設し、区内産業団体との連携強化を図るとともに、産業振興審議会を設置しました。また、産業振興計画を平成25年4月に改定しました。
就労支援・雇用促進	—	平成24年12月に就労支援センターを開設し、若者を中心に個々の状況に応じたきめ細かい就労支援をハローワークと一体となって行いました。開設から4か月間で、就労準備相談は212人の利用があり、就職決定者は25人でした。また、ハローワークでの就職決定者は84人でした。
地域特性を活かした商店街活性化の促進	—	商店街装飾灯のLED化：11商店会（285本）、防犯カメラの設置：3商店会（43台）に整備助成を行い、安全・安心に利用できる生活支援拠点としての商店街づくりを進めました。また、地域の特性を活かした商店街活性化の取組や、若手事業者の団体が提案する意欲的でアイデアが活かされた事業を支援することにより、商店街の魅力向上を図りました。



3 かかった経費

平成24年度にこの施策にかかった経費は、事業費と人件費を合わせ、約10億4千万円でした。このうち、事業費は約8億4千万円、人件費は約2億円です。主な事業費としては、商店街支援に約3億5千万円、中小企業支援に約1億5千万円、産業支援の環境整備に約1億円、アニメーションミュージアムの運営など、アニメの振興と活用に約6千万円となっています。

区民一人あたりの額

この事業 1,931円
 区の全ての事業 42万7千円

4 自己評価

産業振興センターの開設や産業振興審議会の設置などにより、産業振興の基盤整備を図りました。「産業振興計画の改定」、「(仮称)中小企業振興基本条例の制定」について産業振興審議会に諮問し、12月に計画改定についての答申を受けました。その後、区民等の意見提出手続を経て、平成25年4月に計画を改定しました。条例については、(仮称)産業振興基本条例として制定すべきとの意見を元に検討が進められています。

商店街の支援では、防犯カメラの設置や装飾灯のLED化を進めるとともに、新設した「地域特性にあった商店街支援事業」、「商店街若手支援事業」の活用により、創意工夫とアイデアが活かされた意欲的な事業を支援し、商店街の活性化に向けた取組が進みました。

また、現役世代への就労支援、とりわけ若者の就労環境の悪化により若者の就労支援が喫緊の課題となっていることから、12月に「就労支援センター」を開設し、区とハローワークとが一体となって就労支援をスタートさせ、合わせて109名の就労につながりました。

5 今後の施策の方向

商店街は、高齢化による人材不足や経営意欲の低下が顕在化していることから、企業やNPO等が商店街の活性化にかかわっていただけるような制度の構築を進めます。

農業の支援・育成については、都市農地や農業の必要性を区民に理解してもらうため、安全安心な農産物の生産量向上のための新たな集荷配送システムの構築や、体験農園の開園に向けた農家への働きかけを進めます。

就労困難者に対する社会参加・中間的就労の取組については、区内事業者と十分に協議し、相互理解を深めた上で実効性のある事業としていきます。また、ハローワークとの連携により、区内企業の求人を掘り起こし、求職者への積極的な情報提供や就職面接会の開催などにより、企業が求める人材の採用につながるよう取り組んでいきます。

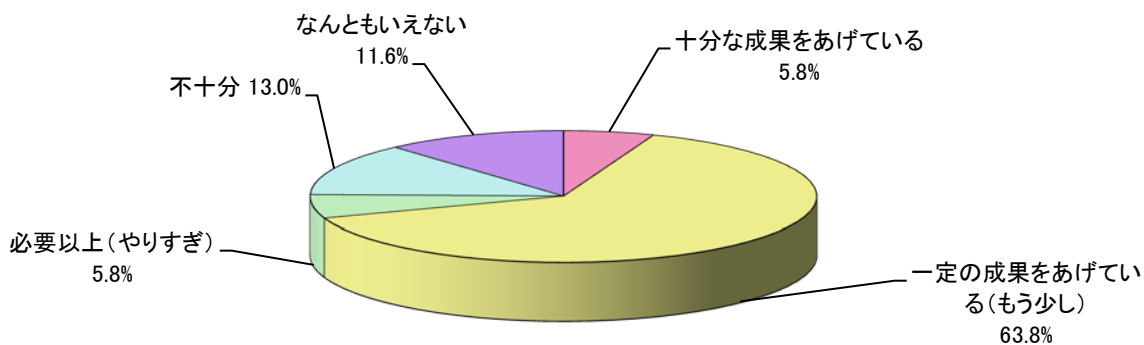
こうした取組を進めることにより、改定した産業振興計画に基づき、地域の特性を活かし、総合的なまちづくりの視点を取り入れながら着実に事業を推進し、「地域のにぎわいと活力を生み出す 住環境と調和した杉並らしい産業の振興」(同計画の基本指針)を目指します。

(設問10から設問13までは、評価用シート「No.2 地域の特性を活かし将来を見据えた産業の振興」をご覧になってからお答えください。)

設問10 シートの「2 取組状況・成果」「4 自己評価」について、どう思いますか。

N = 69

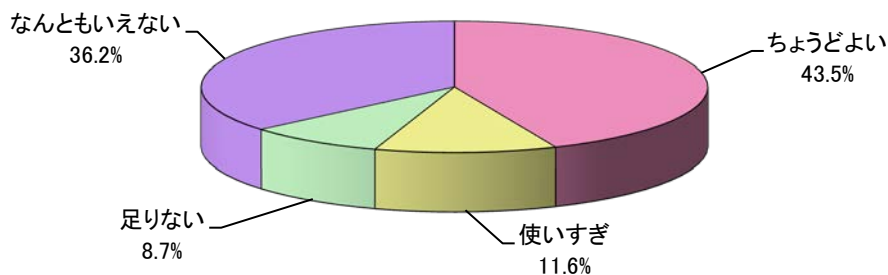
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	4	5.8%	男性	2		1	1	
			女性	2		2		
② 一定の成果をあげている(もう少し)	44	63.8%	男性	23	3	7	7	6
			女性	21	2	12	7	
③ 必要以上(やりすぎ)	4	5.8%	男性	1				1
			女性	3		3		
④ 不十分	9	13.0%	男性	6		4	1	1
			女性	3		3		
⑤ なんともしえない	8	11.6%	男性	1		1		
			女性	7	1	4	2	



設問11 シートの「3 かかった経費」について、どう思いますか。

N = 69

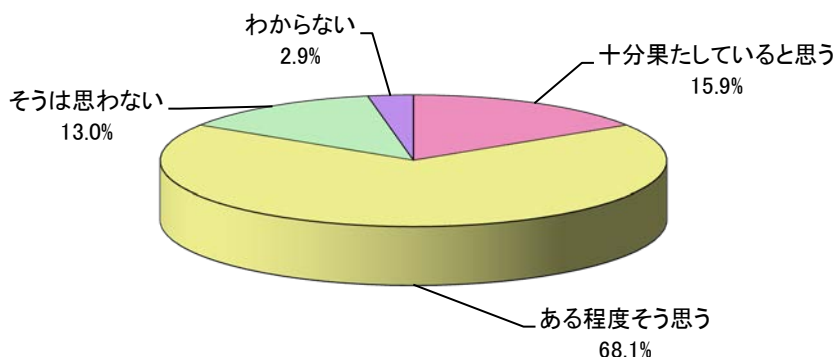
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	30	43.5%	男性	15	2	5	4	4
			女性	15	1	9	5	
② 使いすぎ	8	11.6%	男性	2		2		
			女性	6		5	1	
③ 足りない	6	8.7%	男性	4		2	1	1
			女性	2		2		
④ なんともしえない	25	36.2%	男性	12	1	4	4	3
			女性	13	2	8	3	



設問12 商店街は、身近な買い物場であるだけでなく、まちのにぎわいの創出や地域のコミュニティづくりの場として、中心的役割を果たしていると思いますか。

N = 69

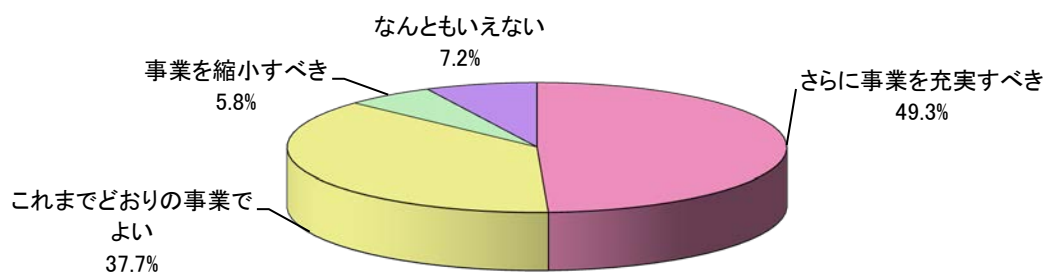
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分果たしていると思う	11	15.9%	男性	5	1	3	1	
			女性	6		2	4	
② ある程度そう思う	47	68.1%	男性	23	1	7	7	8
			女性	24	2	18	4	
③ そうは思わない	9	13.0%	男性	4		3	1	
			女性	5		4	1	
④ わからない	2	2.9%	男性	1	1			
			女性	1	1			



設問13 シートの「5 今後の方向」について、どう思いますか。

N = 69

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	34	49.3%	男性	18		9	4	5
			女性	16	2	9	5	
② これまでどおりの事業でよい	26	37.7%	男性	13	3	3	5	2
			女性	13	1	8	4	
③ 事業を縮小すべき	4	5.8%	男性	1		1		
			女性	3		3		
④ なんともいえない	5	7.2%	男性	1				1
			女性	4		4		



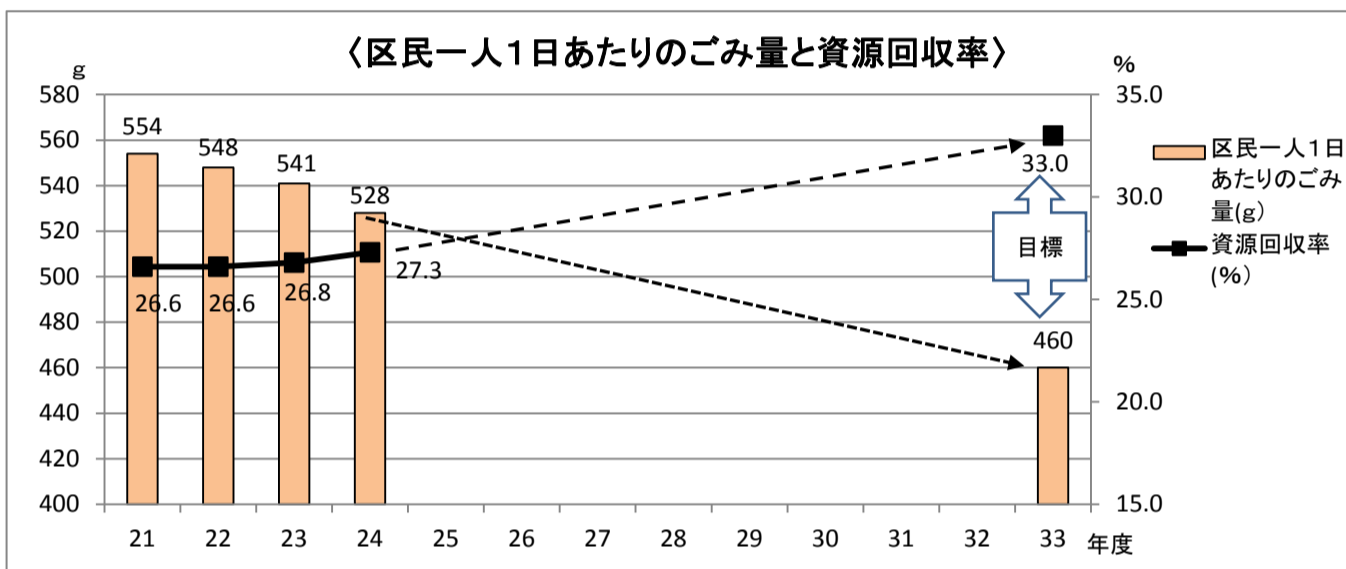
No.3 ごみの減量と資源化の推進

1 目標（平成33年度の杉並区の姿）

○ごみの減量・資源化に対する区民意識の向上が図られ、家庭や事業所での分別の徹底により、資源回収量が増加し、ごみ量は着実に減少しています。
 ○集積所へのごみ出しのルール・マナーが守られ、空き地や私道への不法投棄も減少し、まちの美観が保たれています。また、カラス対策の効果が上がり、集積所のごみの散乱は年々減少してきています。

2 主な取組・成果

取組	数量	内容
「ごみ・資源の収集カレンダー」等の発行	435,027部	「ごみ・資源の収集カレンダー」は、区民の意見等をもとに内容を精査し、全世帯に配布しました。その他、清掃情報紙「ごみパックン」「ごみパックン中学生版」などを発行し、町会、スーパー、小中学生に配布しました。
資源の回収	32,372トン	再商品化が可能な古紙、びん、缶、ペットボトル、プラスチック製容器包装の資源物を分別回収することにより、資源回収率は27.3%となっています。
リサイクル活動の支援	—	集団回収の活動団体は、23年度実績から15団体増加し401団体となり、回収量も3%増加し6,824,407トンでした。コンポスト容器・生ごみ処理機の購入費助成は134件で、過去3年間で一番多い件数となっています。



3 かかった経費

平成24年度にこの施策にかかった経費は、事業費と人件費を合わせ、約64億1千万円でした。このうち、事業費は約40億8千万円、人件費は約23億4千万円です。主な事業費としては、古紙、びん、缶、ペットボトルなど資源の回収に約21億7千万円、ごみ・し尿の収集・運搬に約16億7千万円です。

区民一人あたりの額

この事業	11,883円
区の全ての事業	42万7千円

4 自己評価

清掃情報紙やごみ・資源の収集カレンダーによるごみの分別・ごみ出しルールの周知徹底、資源の集団回収事業の拡充への取組など、ごみの減量・資源化に対する区民の意識啓発を粘り強く行ったことにより、平成24年度のごみ量は前年度と比較し、約2,322トン減少し区民一人1日あたりのごみ量が541gから528gとなりました。また、全体の資源回収量（行政回収+集団回収+拠点回収）は39,196トンで、前年度と比較して123トンの増加となり、資源回収率は、26.8%から27.3%へと向上しました。区民一人1日あたりのごみ量は、23区で最少レベルにあり、おおむねの成果は得られました。

5 今後の施策の方向

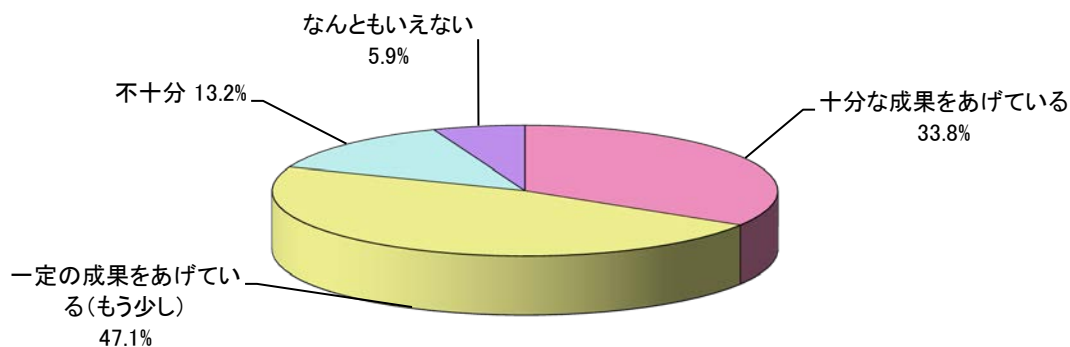
ごみの減量・資源化を推進するため、あらゆる媒体を通じて、区民・事業者に対して幅広くわかりやすい分別方法や、ごみの発生抑制となるリデュース、リユース、リサイクルの「3R」を呼びかけていきます。また、区民の自主的な集団回収活動を支援し実施団体を増やす取組や、資源抜き取り対策を継続することにより良質な資源の回収を安定的に進めます。さらに平成25年度は、粗大ごみからの有用金属の回収充実、小型家電の資源化、若年層向けにごみ出しルール等の周知徹底を図るため、スマートフォン向けアプリケーション（「なみすけのごみ出し達人（マスター）」）の作成・運用、平成26年度開始を目指した不燃ごみの再資源化の検討に取り組み、更なるごみの減量・資源化を推進します。

(設問14から設問17までは、評価用シート「No.3 ごみの減量と資源化の推進」をご覧になってからお答えください。)

設問14 シートの「2 取組状況・成果」「4 自己評価」について、どう思いますか。

N = 68

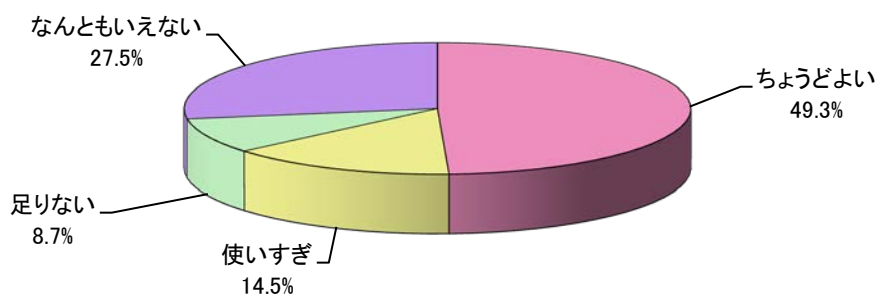
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	23	33.8%	男性	9	1	5	2	1
			女性	14		11	3	
② 一定の成果をあげている(もう少し)	32	47.1%	男性	16	2	3	5	6
			女性	16	1	9	6	
③ 必要以上(やりすぎ)	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
④ 不十分	9	13.2%	男性	5		2	2	1
			女性	4	1	3		
⑤ なんともいえない	4	5.9%	男性	2		2		
			女性	2	1	1		



設問15 シートの「3 かかった経費」について、どう思いますか。

N = 69

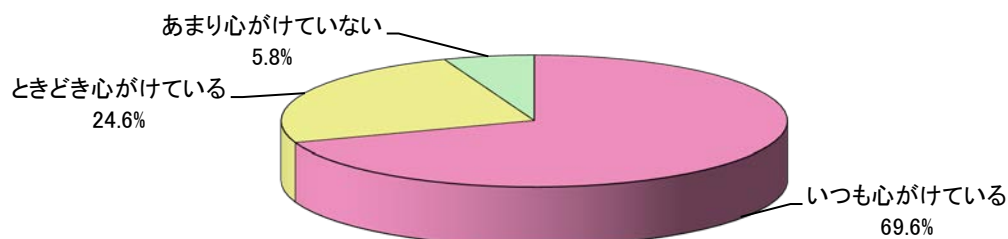
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	34	49.3%	男性	17	1	7	5	4
			女性	17		14	3	
② 使いすぎ	10	14.5%	男性	4	2	2		
			女性	6		5	1	
③ 足りない	6	8.7%	男性	5		2	1	2
			女性	1	1			
④ なんともいえない	19	27.5%	男性	7		2	3	2
			女性	12	2	5	5	



設問16 あなたは、日ごろから、ごみの減量やリサイクルを心がけていますか。

N = 69

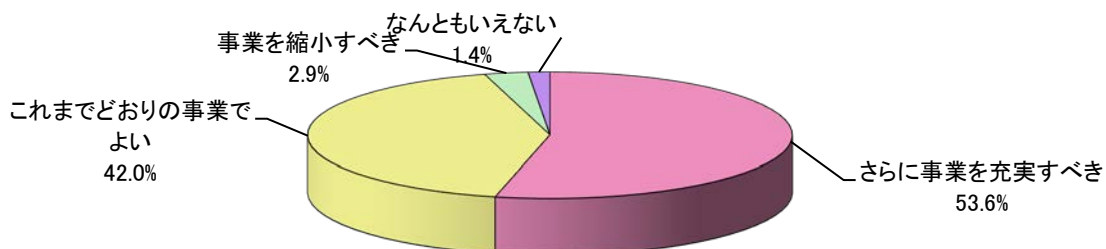
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① いつも心がけている	48	69.6%	男性	24	2	9	8	5
			女性	24	1	15	8	
② ときどき心がけている	17	24.6%	男性	4		2		2
			女性	13	2	10	1	
③ あまり心がけていない	4	5.8%	男性	4	1	2	1	
			女性	0				
④ まったく心がけていない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				
⑤ どちらともいえない	0	0.0%	男性	0				
			女性	0				



設問17 シートの「5 今後の方向」について、どう思いますか。

N = 69

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	37	53.6%	男性	22	1	7	7	7
			女性	15	2	7	6	
② これまでどおりの事業でよい	29	42.0%	男性	11	2	6	2	1
			女性	18	1	14	3	
③ 事業を縮小すべき	2	2.9%	男性	0				
			女性	2		2		
④ なんともいえない	1	1.4%	男性	0				
			女性	1		1		



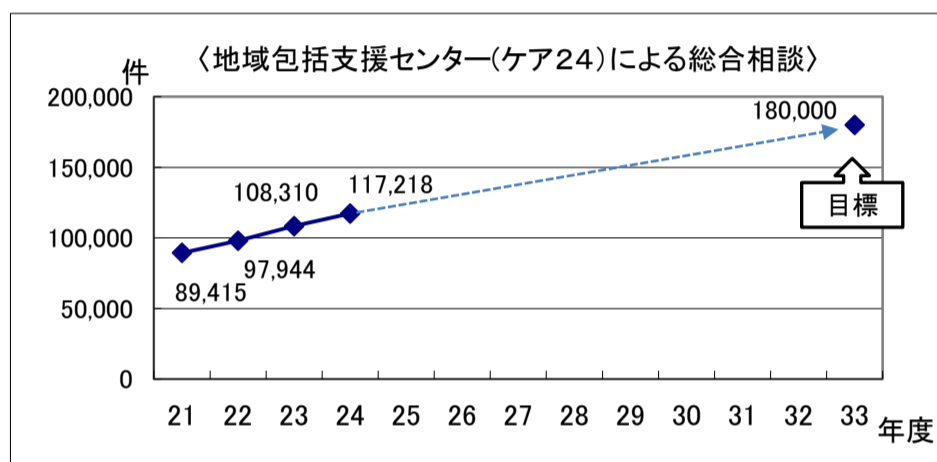
No.4 高齢者の在宅サービスの充実

1 目標（平成33年度の杉並区の姿）

- 高齢者が安心して在宅生活を継続できるよう、医療や介護、生活支援などが連携した包括的なサービスが充実しています。
- 在宅で介護する家族の負担軽減を図るため、介護者支援サービスが充実しています。

2 主な取組・成果

取組	数量	内容
高齢者緊急安全システム	1,146世帯	緊急時にペンダントを押すと消防署などに通報される緊急通報システムや火災安全システムなどにより、高齢者の見守り強化を進めています。
ほっと一息、介護者ヘルプ	635人	「ほっと一息、介護者ヘルプ」は、認知症の要介護者を介護する家族の負担軽減を図るため、要支援の認定を受けている要介護者を介護する家族も利用対象とするよう検討し、25年度から実施しています。
介護用品等の支給	4,161人	介護用品の支給は、入院時のおむつ代金の助成要件を紙おむつの現物支給要件と合わせることで支給手続面の負担軽減を図り、家族介護者の支援を強化しました。
地域包括支援センター(ケア24)による総合相談	117,218件	区内20箇所を設置されている地域包括支援センター(ケア24)では、介護等に関する総合的な相談や助言、調整を行っており、相談件数は毎年9,000件程前後伸びるなど、高齢者の身近な相談窓口として重要な役割を担っています。



※ 地域包括支援センター(ケア24)は、高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、あらゆる相談に応じるとともに、そのニーズに対応した介護・医療・福祉サービスを総合的に受けられるようにするため、地域の様々な社会資源等との連携調整を行うために設置しています。地域包括支援センター(ケア24)には、保健師、看護師、社会福祉士、主任ケアマネージャー等専門知識を有した職員を配置しています。

3 かかった経費

平成24年度にこの施策にかかった経費は、事業費と人件費を合わせ、約6億1千万円でした。このうち、事業費は約5億7千万円、人件費は約4千万円です。主な事業費としては、区内20箇所の地域包括支援センター(ケア24)に委託して行っている総合相談支援事業に約2億5千万円、介護用品の支給に2億9千万円、介護者の負担軽減を目的としたヘルパー派遣事業、継続的な見守りを行う高齢者緊急安全システムに約3千万円となっています。

区民一人あたりの額

この事業 3,336円
区の全ての事業 42万7千円

4 自己評価

介護が必要になっても、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、多様な在宅支援サービスの充実を進めました。なかでも一人暮らし高齢者の孤立化を防止するため、配食サービスや緊急通報システムなど見守りサービスの向上を図り、重層的な見守り体制の強化に努めました。他に在宅生活を続けるための支援の強化として、緊急ショートステイ利用の前日対応を可能にするなど、区独自の在宅支援サービスを充実しました。

また、後方支援病床の確保に向け、新たに2箇所の協力病院と協定を締結し、在宅療養時の一時的な入院対応に備えるなど、在宅療養支援体制を強化しました。

5 今後の施策の方向

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるように、「住まい」「医療」「介護」「生活支援」「予防」の5つの機能が効果的に連携した地域包括ケアの実現を目指します。そのために、地域包括支援センターを中心にした、「地域ケア会議」を通じて情報収集・意見交換を行うなど、高齢者を支援する関係機関・団体などの地域資源の連携を推進し、地域の総合的な支援力を高めます。

認知症対策は今後の重要な課題であり、地域が一丸となって取り組むことが求められています。そのためには、地域住民や商店、公共機関などを対象とした認知症サポーター養成講座を開催するなど、認知症が疑われる高齢者を早期に発見ができる地域づくりを目指します。また、「認知症コーディネーター」を設置し、効果的な早期発見を進め、区内浴風会にある認知症疾患医療センター等の医療機関や介護施設、地域包括支援センター等関係機関との連携強化を進めます。

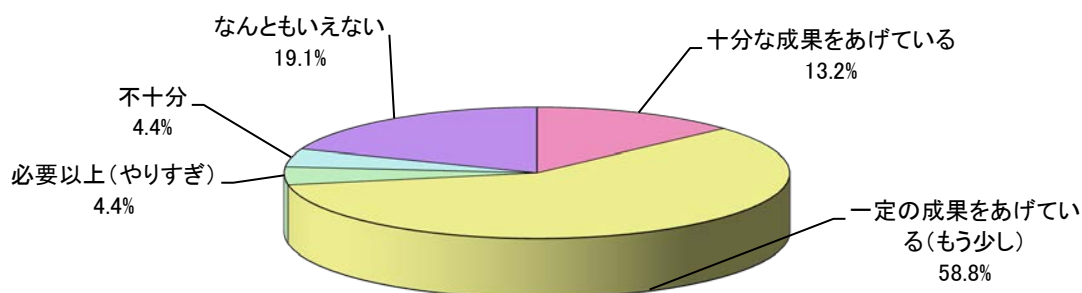
また、一人暮らしの高齢者や高齢者のみ世帯などが孤立することのないように、安心おたっしや訪問事業の対象者拡大をはじめ、町会、自治会や「あんしん協力員」による地域での見守りや宅配事業者や配食事業者等の業務特性を活かした「あんしん協力機関」による見守り、さらには、緊急通報システムによる見守りなど、重層的な見守り体制を強化していきます。

(設問18から設問21までは、評価用シート「No.4 高齢者の在宅サービスの充実」をご覧になってからお答えください。)

設問18 シートの「2 取組状況・成果」「4 自己評価」について、どう思いますか。

N = 68

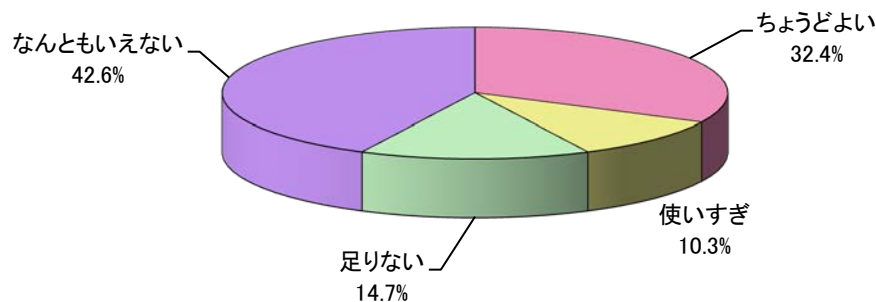
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	9	13.2%	男性	5	1	1	3	
			女性	4	1	3		
② 一定の成果をあげている(もう少し)	40	58.8%	男性	20	2	6	6	6
			女性	20	1	12	7	
③ 必要以上(やりすぎ)	3	4.4%	男性	1		1		
			女性	2		2		
④ 不十分	3	4.4%	男性	1				1
			女性	2		1	1	
⑤ なんともしえない	13	19.1%	男性	6		5		1
			女性	7	1	5	1	



設問19 シートの「3 かかった経費」について、どう思いますか。

N = 68

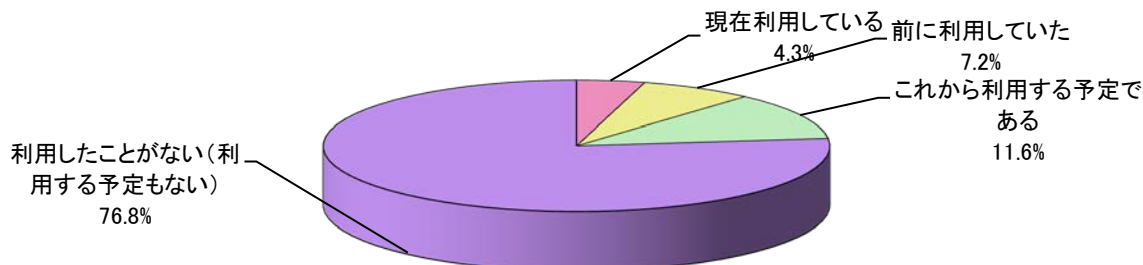
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	22	32.4%	男性	15	3	6	4	2
			女性	7		4	3	
② 使いすぎ	7	10.3%	男性	2		1	1	
			女性	5	1	4		
③ 足りない	10	14.7%	男性	5		1	2	2
			女性	5		5		
④ なんともしえない	29	42.6%	男性	11		5	2	4
			女性	18	2	11	5	



設問20 あなた、またはあなたのご家族は高齢者又は介護をする人向けの在宅サービスを利用していますか。

N= 69

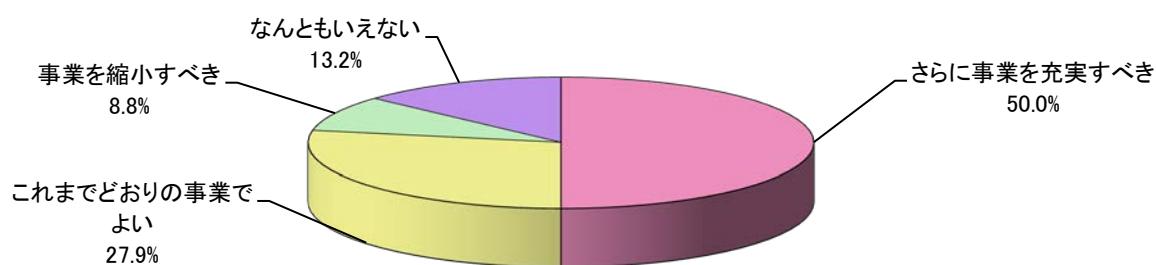
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 現在利用している	3	4.3%	男性	1				1
			女性	2	1	1		
② 前に利用していた	5	7.2%	男性	1			1	
			女性	4		2	2	
③ これから利用する予定である	8	11.6%	男性	5	1		2	2
			女性	3		3		
④ 利用したことがない(利用する予定もない)	53	76.8%	男性	25	2	12	6	5
			女性	28	2	19	7	



設問21 シートの「5 今後の方向」について、どう思いますか。

N= 68

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	34	50.0%	男性	16	2	3	5	6
			女性	18	1	11	6	
② これまでどおりの事業でよい	19	27.9%	男性	10	1	5	2	2
			女性	9	1	6	2	
③ 事業を縮小すべき	6	8.8%	男性	2		1	1	
			女性	4		4		
④ なんともいえない	9	13.2%	男性	5		4	1	
			女性	4	1	2	1	



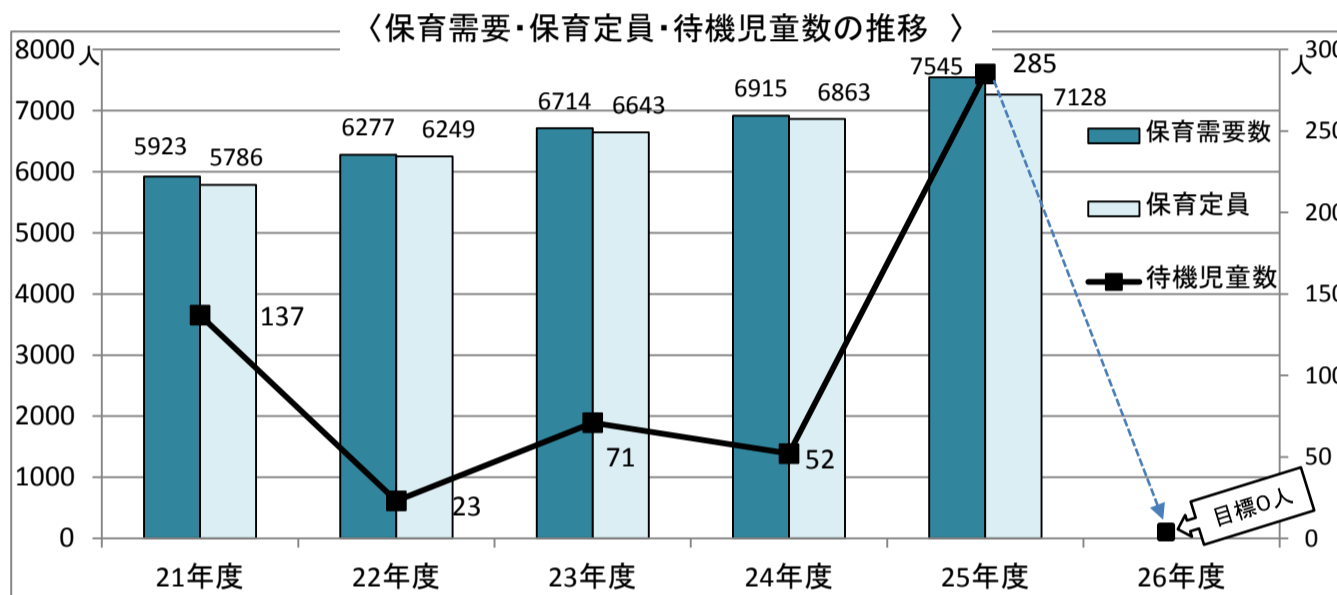
No.5 保育の充実

1 目標（平成33年度の杉並区の姿）

○保育所入所待機児童が解消され、子どもを生み育てながら安心して就労等が可能な環境が整ってきています。
 ○保護者の就労形態にかかわらず、誰もが希望する就学前の教育と保育サービスが受けられるようになり、すべての子どもが健やかに育ち小学校への円滑な接続ができています。

2 主な取組・成果

取組	数量	内容
私立保育園の開設・改築等	4所	平成25年度当初に1所開所（西荻地域）したほか、改築により1所、定員変更により3所、合計118名の定員を増やしました。
認証保育所の開設	2所	平成24年度中に1所（西荻地域）、25年度当初に1所（高円寺地域）開所し、定員を63名増やしました。
区保育室の開設	1所	平成24年度中に区保育室を開設し、定員を30名増やしました。
私立幼稚園の預かり保育の定員の変更	2園	平成25年度当初に2園について預かり保育の定員を変更し、定員を20名増やしました。



※待機児童数：各年度4月1日時点の待機児童数
 保育定員：認可保育所、東京都認証保育所、区保育室、家庭福祉員、認定こども園、区立子供園（長時間保育）、私立幼稚園預かり保育の定員。

3 かかった経費

平成24年度に公立私立をあわせて5,571名の保育園児の保育や、新たな保育施設の整備等にかかった費用は、事業費と人件費を合わせ、約160億6千万円でした。このうち、事業費は約80億4千万円、人件費は約80億2千万円です。

また、歳入としては、保育料15億1千万円、国・都からの補助金10億9千万円などでした。

区民一人あたりの額

この事業	29,736円
区の全ての事業	42万7千円

4 自己評価

待機児童の早期解消を図るため、実行計画に基づき、認可保育所を核とした多様な保育施設の整備を進めましたが、厳しい社会経済情勢や女性の社会進出の本格化等による保育需要の急増に伴い、平成25年度の認可保育所の入園申込者数は、前年度比約400名増の約3,000名となり、2月に実施した第一次選考では、その半数となる約1,500名が入園内定に至らない結果となりました。

こうした状況を踏まえ、待機児童ゼロの目標を早期に達成するため、平成26年4月までに、800名を超える新たな保育定員を確保するための様々な緊急対策を盛り込んだ「待機児童対策緊急推進プラン」を策定し、着実な取組を図ることとしました。

5 今後の施策の方向

平成25年4月の待機児童数は、従来の国の定義に基づく94名から、より実態に即した285名に見直しました。現在、「待機児童対策緊急推進プラン」に基づく施設整備等の取組を進めるとともに、285名の待機児童数を基にした当面の保育需要に関するデータ分析を行い、平成26年4月の待機児童ゼロを確実に達成するために必要な施設整備を早急に進めていきます。

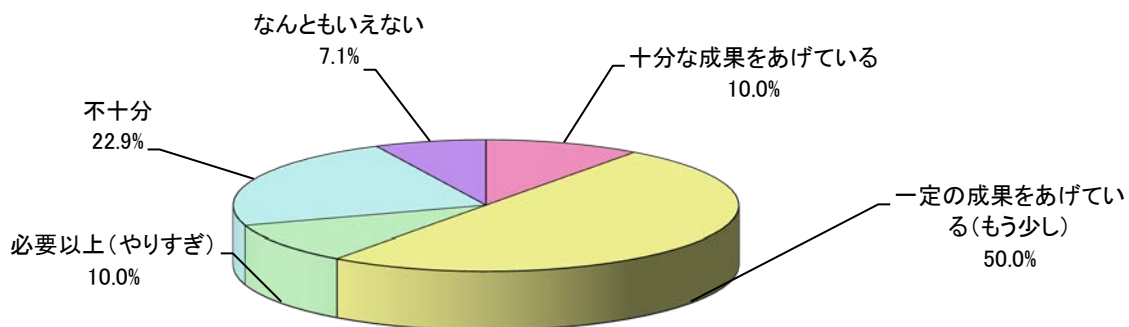
また、認証保育所などの認可外保育施設の保育料補助制度の拡充を図り、より一層利用しやすい環境づくりを進めていくとともに、多様な保育施設や空き状況、保育サービスに関する情報提供・相談・案内機能をより一層拡充し、保護者の個々のニーズに寄り添った相談・案内を実施していきます。

(設問22から設問25までは、評価用シート「No.5 保育の充実」をご覧になってからお答えください。)

設問22 シートの「2 取組状況・成果」「4 自己評価」について、どう思いますか。

N = 70

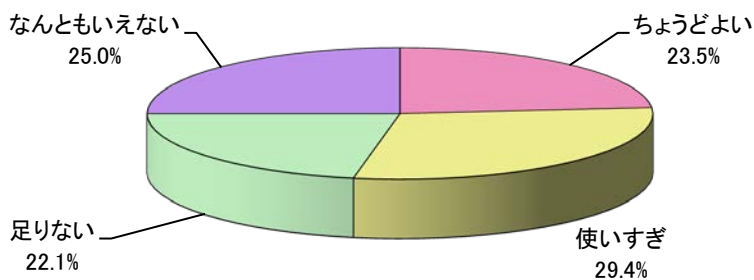
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 十分な成果をあげている	7	10.0%	男性	3		2		1
			女性	4	1	3		
② 一定の成果をあげている(もう少し)	35	50.0%	男性	19	2	4	8	5
			女性	16	1	8	7	
③ 必要以上(やりすぎ)	7	10.0%	男性	5	1	2	1	1
			女性	2		1	1	
④ 不十分	16	22.9%	男性	3		3		
			女性	13		13		
⑤ なんともいえない	5	7.1%	男性	3		2		1
			女性	2	1		1	



設問23 シートの「3 かかった経費」について、どう思いますか。

N = 68

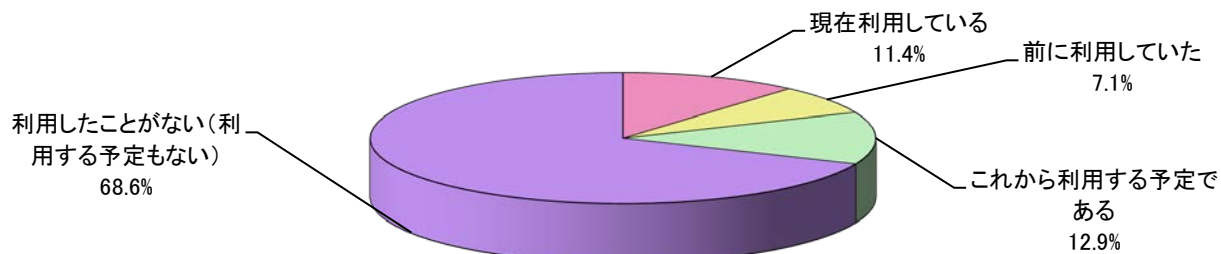
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① ちょうどよい	16	23.5%	男性	11	1	3	3	4
			女性	5		4	1	
② 使いすぎ	20	29.4%	男性	9	2	5	1	1
			女性	11	1	7	3	
③ 足りない	15	22.1%	男性	7		3	3	1
			女性	8		8		
④ なんともいえない	17	25.0%	男性	5		1	2	2
			女性	12	2	6	4	



設問24 あなたのご家族は保育園を利用していますか。

N = 70

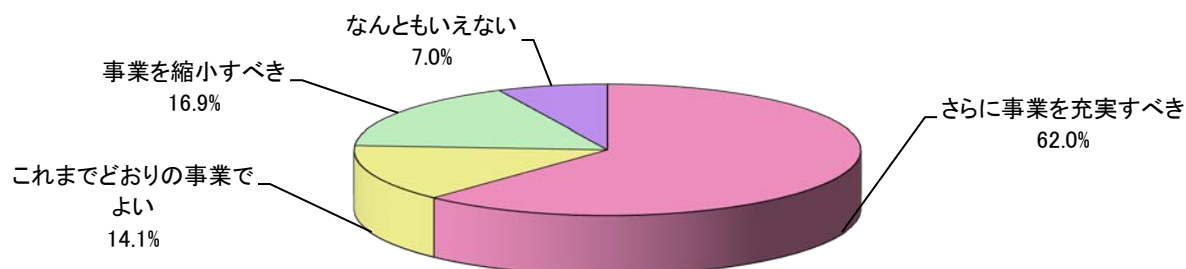
	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① 現在利用している	8	11.4%	男性	2	0	2	0	0
			女性	6	0	6	0	0
② 前に利用していた	5	7.1%	男性	4	0	3	1	0
			女性	1	0	1	0	0
③ これから利用する予定である	9	12.9%	男性	1	1	0	0	0
			女性	8	0	7	1	0
④ 利用したことがない(利用する予定もない)	48	68.6%	男性	26	2	8	8	8
			女性	22	3	11	8	0



設問25 シートの「5 今後の方向」について、どう思いますか。

N = 71

	全体		性別		10・20代	30・40代	50・60代	70代以上
	人数	割合	男性	女性				
① さらに事業を充実すべき	44	62.0%	男性	21	2	7	7	5
			女性	23	1	17	5	
② これまでどおりの事業でよい	10	14.1%	男性	4		1	1	2
			女性	6	1	3	2	
③ 事業を縮小すべき	12	16.9%	男性	6	1	4	1	
			女性	6		5	1	
④ なんともいえない	5	7.0%	男性	2		1		1
			女性	3	1	1	1	



以上